

■6月25日

エアアジア(LCC)、ANAとの合併解消、25日に正式発表

(シンガポール共同)

マレーシアに拠点を置くアジア最大規模の格安航空会社(LCC)エアアジアは24日までに、全日本空輸を傘下に置くANAホールディングスとの日本での合併事業を、10月末で解消することを決めた。エアアジアとANAが25日に正式発表する。関係者が明らかにした。

エアアジアのフェルナンデス最高経営責任者(CEO)は、中部国際空港や仙台空港発着の新規路線に関心を示しており、ANAに代わる日本の提携先を模索するとみられる。25日の発表には、エアアジアが提携解消後も日本市場に関与していく意向であることが盛り込まれる見通しだ。

(47news)6/24

<http://www.47news.jp/CN/201306/CN2013062401002283.html> (->

<http://www.47news.jp/CN/201306/CN2013062401002283.html>)

PEACH(LCC)、夏期繁忙期、上限運賃を値上げ

ピーチ・アビエーションは24日、夏の繁忙期に航空運賃を一部値上げすると発表した。対象は関空に発着する国内6路線で、上限運賃を最大4割高く設定する。7月1日の購入分から適用し、10月26日までの搭乗分を対象とする。同社は「需要動向にあった適正価格を提供することが目的」と説明している。

ピーチの航空運賃は予約状況に応じて変わり、出発日が迫った航空便ほど高くなる。これまで運賃を上限から下限まで13段階の刻みとしていたが、関空を発着する札幌と仙台、長崎、鹿児島、那覇、石垣の各路線で14段階へ改める。福岡線は対象外。

* 太字が変更運賃

	ハッピーピーチ 2013年7月1日 9時00分以前 の購入に適用	ハッピーピーチ 2013年7月1日 9時00分以降 の購入に適用
大阪(関西)=札幌(新千歳)	4,590円～19,990円(片道)	4,590円 - 27,990円 (片道)
大阪(関西)=福岡	3,590円～15,890円(片道)	3,590円 - 15,890円(片道)
大阪(関西)=長崎	3,590円～15,890円(片道)	3,590円 - 18,390円 (片道)
大阪(関西)=鹿児島	4,290円～17,890円(片道)	4,290円 - 20,690円 (片道)
大阪(関西)=沖縄(那覇)	4,590円～19,990円(片道)	4,590円 - 24,890円 (片道)
大阪(関西)=仙台	4,390円～18,890円(片道)	4,390円 - 23,090円 (片道)
大阪(関西)=石垣	6,190円～26,990円(片道)	6,190円 - 28,890円 (片道)
沖縄(那覇)=石垣 *9 月13日就航	3,290円～14,790円(片道)	3,290円 - 14,790円(片道)

(日経)6/24

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD240MF_U3A620C1TJ2000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD240MF_U3A620C1TJ2000/)

(PEACHプレスリリース)6/24

<http://www.flypeach.com/jp/ja-jp/fares/faretype.aspx#d1> (-> <http://www.flypeach.com/jp/ja-jp/fares/faretype.aspx#d1>)

大田国交相、日航外国人株主への配当規制は困難

大田昭宏国土交通相は6月21日の記者会見で、日航が全ての外国人株主に配当を実施できるように定款を変更したことについて、『航空法で(外国人による)議決権の割合は3分の1未満に制限することが決められているが、配当は議決権行使とは別に会社の経営判断で行われるため、外国人株主への配当を規制することは現行法上困難。ただし、日本航空の再生が関係者の理解のもとで、公的支援の投入や債権放棄あるいは減資等の協力によって行われてきたことも事実だから、日本航空は国民に不可欠な路線の維持も含めた利益の社会的還元について早急に検討を進めて欲しい』と述べた。

News

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(国交省 HP)6/21

<http://www.mlit.go.jp/report/interview/daijin130621.html> (-> <http://www.mlit.go.jp/report/interview/daijin130621.html>)

ジェイ・エア、エンブラエル170型、3機追加購入

ジェイ・エアは、日航グループ国内線戦略機材であるリージョナルジェットのエンブラエル170型3機を追加導入すると発表した。2013年度中に地方路線間を中心に就航させる予定。今年度夏ダイヤから段階的に開放されている伊丹空港の低騒音機用の発着枠を有効活用していく。

ジェイ・エアでは、2009年2月から170型機の導入を開始、昨年度末も1機受領しており、今回の3機の追加導入で合計15機体制となる。

(レスポンス)6/24

<http://response.jp/article/2013/06/24/200690.html> (-> <http://response.jp/article/2013/06/24/200690.html>)

(JAIR)6/19

http://areanews.jal.co.jp/ja/attaches/pdf/itm_130619.pdf (-> http://areanews.jal.co.jp/ja/attaches/pdf/itm_130619.pdf)

鹿児島県、上海線維持、県職員などの派遣予算、批判相次ぐ

中国東方航空が運航する鹿児島—上海線の利用率が低迷している問題で、県は、県職員などを1000人規模派遣する事業費1億1800万円を盛り込んだ一般会計補正予算案審議された。

県が内容を説明したが、一部議員が「批判が多い事業。丁寧に説明すべきだ」。議員からは「財源に職員給与の削減分を充てるという説明は納得できない」「上海便の危機的状況は前もって予測できたはずで、別の対策を取るべきだった」などの批判が続いた。

県は「上海便の路線維持は不可欠。今年は4月以降、キャンセルが相次ぎ、危機的な状況だ」と説明。路線維持に必要な搭乗率は、「おおむね50%台」と答えた。同路線の搭乗率は昨年が47.5%、今年1～5月は52%となっている。

(読売新聞)6/24

<http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20130624-OYT1T00797.htm?from=ylist> (->

<http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20130624-OYT1T00797.htm?from=ylist>)

(西日本新聞)6/24

<http://www.nishinippon.co.jp/wordbox/word/7222/9727> (-> <http://www.nishinippon.co.jp/wordbox/word/7222/9727>)

大韓航空、青森—仁川線、10月まで週3便維持

青森—ソウル線を運航している大韓航空が、日本人利用客激減により7月から運休せざるをえないと、青森県に申し入れていた問題で同社は、7月以降も週3便を維持することを決めた。

同社の崔晶皓(チェジョンホ)・日本地域本部長が24日、県庁で三村知事と会談し、日本人客回復に向けた取り組みの強化を求めた。

読売新聞によると、崔本部長は三村知事に「日本人客が半減以下の厳しい状況。もう少し日本人客が回復すればこの路線は安定する」と不満を漏らした。知事は「努力の上乗せ分は7、8月から出てくる。いつも約束は果たしてきた」と応じる一方、日、水、金だった発着日が4月から火、木、土に変更され、週末に同便を利用しにくくなったと指摘し、発着日の改善を要請した。

県はこの日、利用客増加のため、7月1日から9月30日まで、ソウル便など青森空港発着の国際線を利用する場合、現行は2泊3日で1800円の空港の駐車場料金を2泊3日以上でも一律1000円、羽田・成田空港経由で国際線を利用する場合は、4泊5日で3400円の料金を4泊5日以上でも一律3000円にすると発表した。

(2013年6月25日 読売新聞)

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/aomori/news/20130624-OYT8T01686.htm> (-> <http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/aomori/news/20130624-OYT8T01686.htm>)

(日テレ)6/26

<http://news24.jp/nmn/news8765294.html> (-> <http://news24.jp/nmn/news8765294.html>)

長崎県、香港EGLツアーズ、香港からのチャーター便、今夏16便

長崎県はこのほど、香港の旅行会社であるEGLツアーズにより、香港—長崎のチャーター便16往復運航されると発表した。運航航空会社は、香港ドラゴン航空。期間は7月から8月にかけて、4泊5日のツアーが造成された。なお、きょう(25日)香港EGLツアーズの袁文英代表取締役社長が長崎県庁に長崎県知事を訪ね、チャーター便運航にあたっての挨拶と今後の観光振興に向けた意見交換、記念調印の締結などを行う予定。

(日刊航空)6/25

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

ハワイアン航空、台北—ホノルル直行便就航、7月10日から

ハワイアン航空は19日、7月10日に台北—ホノルル直行便を就航させると発表した。米政府の台湾へのノービザ制度開始によるハワイ観光の需要増大を見込んだもので、年末までは往復3万8千円(税別)の就航記念キャンペーン価格で運航する。

使用機材は、エアバスA330—200型機で、座席数は294。

(琉球新報)6/24

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-208464-storytopic-1.html> (-> <http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-208464-storytopic-1.html>)

米航空機内でのWi-Fi機器使用、規制緩和は段階的

(WSJによると)

タブレット型端末や電子書籍端末をはじめとする特定のWi-Fi機器の使用範囲の拡大をワシントンは承認するとみられており、そうなれば滑走路走行中や離着陸時も使用可能になる公算が大きい。しかし、米連邦航空局(FAA)の諮問機関の暫定的な結論によると、そうなった場合でも、機内のちょっとした変更は段階的に行われる見通しだという。

FAA向けに作成された報告書の草案では、科学的・常識的見地から、現行の1万フィート未満での電子機器の使用禁止は緩和すべき時期にきていると基本的に結論付けている。

しかし、機内での電子機器の使用による磁気の干渉を最も受けやすい航空機の機種を特定するため、段階的なテストを実施することが想定されており、それには数カ月かかる公算が大きい。報告書は、機器に影響を与える現行の機内での使用制限の緩和についての特定スケジュールを明示していない。

報告書によると、FAAが新規則の採用を決定した場合でも、さらなる安全性の評価や乗務員の訓練、幅広い世間への周知活動、そして、米国の法律を海外にいる乗客にも基本的に適用させるための海外規制当局との密接な調整が必要になるという。

報告書は9月にFAAに提出される予定で、その前に結論が変わる可能性もある。また、FAAが勧告された変更を改定したり、変更の実施速度を落としたりする可能性もある。しかし、現時点では、大半のケースで安全性へのリスクは「(大半の機体には)代理機能システムが幾重にも用意されているため小さい」と 諮問機関以外の専門家もこの意見に広く同意している。

草案は総じて、滑走路走行中や離着陸時の携帯電子機器の使用禁止の緩和には段階的アプローチを取るよう提案している。どのような機器を、具体的にいつ使用可能にするかは特定していないが、機内での電子機器の使用範囲を拡大し、FAAの規則を最新の科学データや変化する旅客の行動に則したものにしよう繰り返して求めている。

FAAは諮問機関に携帯電話についての勧告を依頼していないため、草案には携帯電話の使用禁止に影響する勧告は含まれていない。

(WSJ)6/24

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424127887323498804578564710584289262.html> (-> <http://jp.wsj.com/article/SB10001424127887323498804578564710584289262.html>)

デルタ航空、アトランタ—サンパウロ線を増便、ブラジル線を強化

デルタ航空は21日、米国運輸省からの仮承認を受けて、アトランタとブラジルのサンパウロを結ぶフライトの増便を行うと発表した。同路線は、現在1日1便のデイリー運航を行っているが、10月から1日2便のダブルデイリーでの運航を目指している。

(日刊航空)6/25

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(デルタ航空 プレスリリース)6/25

<http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000099.000003358.html> (-> <http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000099.000003358.html>)

ユナイテッド航空、北米ハブ空港発着全長距離国際線、フルフラットベッドシート完備

ユナイテッド航空はこのほど、米国本土8カ所のハブ空港を発着する全ての長距離国際線及びシアトル～成田線のプレミアムキャビンに、フラットベッドシートとオンデマンド型エンターテインメントシステムの導入を完了したと発表した。

同社では、長距離国際線で使用する183機の機材にファーストクラスとビジネスクラスの座席を導入。合計のフルフラットベッドシートの数は7000席超となり、米系航空会社の中では最多という。

(トラベルビジョン)6/23

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=57998> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=57998>)

(日刊航空)6/25

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)